HPはこちら

# 東日本ユニオン NEWS

ＪＲ東日本労働組合
発責　教育・広報部
2022 年 5 月 4 日 №451

# 施策の見切り発車か！？

## 「乗務員の業務等の見直し」により相次ぐ行路修正の原因に迫る

東日本ユニオンは、3 月 10 日と 4 月 25 日の 2 回にわたり、幹申第 4 号「2022 年 3 月ダイヤ改正に関する乗務員行路の労働時間不足に関する申し入れ」の団体交渉を開催しました。

団体交渉の冒頭、新幹線統括本部より「会社の責任において作成してきたが、2 度の修正を発生させてしまった。申し訳ない。信義誠実の原則に対し、疑念を抱かせてしまったと重く受け止めている」と謝罪を受けました。

### 乗務員行路の設定誤りを繰り返した原因について明らかにする

**●原因について**

・一部行路の労働時間計算過程において修正の必要があり、全項目について再確認を行い、都度、速やかに必要な対応を実施した。また、入換を伴う一部の出区作業において信号システム上の時間を確保する必要があることが判明したために修正を実施した。

・今までは時間計測であったが「乗務員の業務等の見直し」により距離計測とした。現地で計測したが、距離計測において「加算漏れ」「二重計上」があった。

・賃金に直結することであり重大だと受け止めている。初めての施策であり、変化点を捉えて作業を慎重に取り組むべきだった。振り返りも行っていく。

**【組合の主張】**

**・「なぜ繰り返し発生したのか」ここに問題意識を持っている。現業機関は事象を起こせば対策を求められる。繰り返し事象を起こさないことが重要だ。モデル時間の作成、変更は初めてであるが、1 月と 2 月になぜ確認しなかったのか。現業機関であっても企画部門であっても「確認すること」は当社の文化だ。**

**●課題について**

・施策を行うにあたり現場とのやり取りが不足していた。前広にやることで防げることはある。モデル時間の変更について、線路構造物の変更はある程度分かるが、現地の状況や街の様子が大きく変わった場合には現場と連携し、必要があれば指定通路の距離も見直す。2 度と発生しない。

・日々「変行路」になる。内勤は確認作業が増加してしまう。現場に負担をかけている。システム上の対応含め、勉強していく。

**【組合の主張】**

**・「変革 2027」の会社施策が現場実態を置き去りにして「ひとり歩き」になっていないか。仕組みだけがひとり歩きし、作業を行う社員を置き去りにしている。変化点を急ぎすぎた結果の産物ではないか。**

**・基本行路が次期ダイヤ改正まで変行路になる。新幹線は在来線と違い、再変にならないため何が変わったか分からなくなる。その確認で乗務員の業務が増えている。管理者の確認業務も増える。安全、作業面でも影響が出る。働きやすさを求めた結果、働きにくくなっている。**

## 置き去りにされた現場実態はないか！職場から検証していこう！